

重点目標		具体的取り組み	実現状況の達成度 判断基準	期末 結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
①	組織的な キャリア 教育の取 組の推進	① 一般就労や職場実習先開 拓として企業訪問を行 う。	5段階の評価 A：10社以上 B：8～9社 C：6～7社 D：5社以下	9社で B	訪問先は民間が8社、福祉施設1つであった。目標の10社以上には届 かなかった。障がい者雇用義務率が2.2%に上がるが奥能登には対象 となる企業はほとんどないので小規模な会社でも足を運んで可能性を求 めていくしかないと思う。また、グループホームも増えるので環境は向 上しつつある。
学校関係者評価委員会の評価			奥能登の経済力を考えると、訪問した企業の可能性は低いのかも知れないが、分校の生徒を知ってもらおう機会と とらえてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた 今後の改善策			次年度は、就労や実習先開拓に限らず、生徒の活動や状況を知ってもらおう機会として、どんどん地域や福祉事業 所、行政機関に連携を求めていきたい。		
②	特別支援 教育の専 門性と指 導力を高 める校内 体制の充 実及びセ ンターの 機能の充 実	① スマートスクールネット を閲覧して授業に活用し たり、輪島分校として教 材等を投稿したりして、 指導力の向上を促す。	職員（16名）の合計が A：46点以上 B：30～45点 C：16～29点 D：15点以下	25点で C	アンケートの結果、3点が2名、2点が6名、1点が7名、0点が1 名、合計25点であった。中間結果は17点であったので、8点増えて 活用状況は上がった。教材教具発表会からの投稿や研究授業指導案作成 時の参考など、活用状況はよくなってきてはいるが、普段スマートスク ールを開くということにまで至っていない様子もうかがえる。次年度は より取り組みやすい内容を検討したい。
		② 地域の関係機関や外部専 門家と連携し、校内外で 専門性と指導力を高める 研修会を実施する。	研修会の回数が A：8回以上 B：6～7回 C：4～5回 D：3回以下	10回で A	金沢星稜大学・河野教授の講演会を輪島中・門前高・鳳至小で実施。校 内では外部専門家連携事業で金沢リハビリテーションアカデミー曾山P T1回・精育園平譚OT3回の活用を行ったほか、今年度は課のメンバ ーで個別の教育支援計画、課題設定のポイント、サイン言語についての 校内研修会が実施できた。次年度も実践的な内容の研修会を計画した い。
学校関係者評価委員会の評価			スマートスクール活用は、昨年度と同程度の成果であると思われる。外部専門家活用は大変有効的に行われてお り、その成果が期待できる。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた 今後の改善策			外部専門家活用を継続し、教員の専門性向上のため、より実践的な連携と研修を計画していく。		

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成度 判断基準	期末 結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
③ 地域の学校との交流の促進	① 門前高校校舎への移転に伴い、門前高校、門前中学校、門前東小学校など近隣の学校と、各学部で、または全校で様々な交流を図る。	各部、全校での交流や活動が A：13回以上 B：10回～12回 C：7回～9回 D：6回未満	15回で A	学校全体では、門前高校の文化祭に参加（合唱コンクール鑑賞・販売実習・模擬店参加）や輪島分校文化祭に門前高校吹奏楽部が参加、合同消火訓練で3回行った。小学部は、門前東小学校や門前西小学校との授業交流が3回。中学部は門前中学校とのスポーツ交流や花植えで3回。高等部は、門前高校の体育祭見学、選挙出前講座参加、そば作り、書道授業、音楽授業、調理交流で6回。1年間で全学部の交流合計は15回となる。
学校関係者評価委員会の評価		校舎移転後の交流が進んでいる点を高く評価する。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		各学校との交流の継続とともに、内容の充実や児童生徒の意識の高まりをねらった取り組みを進めていく。		
④ 学校安全教育及び環境教育の推進	① 児童生徒の健康の保持増進のため、家庭との連携を密にし、健康教育と感染症対策等の充実、向上を図る。	家庭向け保健日より、ホームページ掲載回数とともに A：20回以上 B：15回 C：10回 D：10回未満	19回、 15回で B	家庭向け保健日より発行の回数は19回、ホームページ掲載回数は15回でBとなる。今年度は、歯みがき指導後には個別に保健便りを配布。手洗い指導後には、学部ごとに授業の様子や手の写真を入れ配布。感染症が流行ってきた場合はその都度お知らせを出し、家庭との連携が図れてきたのではないかと思う。来年度も、学校で実施した保健指導の内容を家庭にお知らせし、学校と家庭が連携できるようにしていきたい。
	② 門前高校との交流を通して、地域の里山、里海と関わり合う活動を行う。	交流活動した回数が A：5回以上 B：3～4回 C：1～2回 D：未実施	4回で B	高等部生徒が、ゴミゼロ運動、雪割草株分講習会を門前高校生徒と一緒に行った。更に、雪割草の植え付けを門前東小学校児童と一緒に皆月猿山で行った。中学部生徒がパンジーの植え付け活動を門前高校生徒と一緒に行った。合計4回実施した。来年度は、高校のみならず、地域の施設、小学校、中学校とも更に交流の輪を広げていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		保健日よりなどのお知らせが、家庭への有効な情報発信となり機能している。環境教育は地域とともに活動する重要な場であるので、公民館や町会との連携もぜひ進めてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		家庭と連携した健康教育の充実に取り組んでいく。 門前高校に限らず、地域の公民館や各団体と連携して共に活動できるような環境教育の取組を進めていく。		